

海外LPガス情報の紹介

(No. 134 平成 18 年 6 月号)

財団法人 エルピーガス振興センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目19-5

虎ノ門一丁目森ビル

(電話: 03-3507-0041 Fax: 03-3507-0048)

E-mail: info@lpgc.or.jp

HP URL: <http://www.lpgc.or.jp>

(「海外LPガス情報の紹介」のバックナンバーも掲載)

① 《各市場のトピックス》

(1) アジア大洋州・中東・中央アジア地域

- ・**中東**: 6月のスポットカーゴの動きで特筆すべきは、ヤンプ・カーゴについてであり仕向地はスエズ以西向けである。7月は8カーゴでヤンプー、ラスタヌラ積みが半々である。サウジアラムコの原油処理量は、最近950万b/dから900万b/d近くに削減されていると報じられている。
- ・**カタール**: カタールのノースフィールド・ガス田由来の天然ガスからの抽出・分離によるLPGがRas Laffan基地から出荷され第1船は5月、第2船は6月に船積みされた。
- ・**アブダビ**: ADGAS社の3カーゴ入札(8月—10月—11月)はスタットイル社がCP Flat近辺で落札した模様。
- ・**イラン**: 2006年前半の輸出量は約100万トで、船積地はBIK(バンドル・イマン・ホメイニ)とサウスパルス(アサルイエ)。サウスパルス開発の権益保持企業であるスタットイル社及びSK Gasが長期契約保有している。グレンコアー社がBIKカーゴの大半を取り扱っており、6月のアサルイエ出しスポットを購入した模様。
- ・**中国**: 中国の6月度のLPG輸入はCFR価格の高騰にもかかわらず堅調であった。広西省のQinzhouにあるGuangxi Tianchangターミナルが6月に稼働開始しており、受け入れ容量は48,000トあり、輸入第1船で7月初めに22,000トが輸入される。

・**インドネシア**: ConocoPhillips 社が Belanak の LPG を入札にかける模様。輸出規模は 2007 年で 30-40 万トンの規模と思われる。フローティング船は 2006 年 10 月に繋留開始される見込み。

・LPG とコンデンセートが原料市場で競合:

この両原料は世界の石化産業のスチームクラッカー向けのナフサ代替原料として認識されるであろう。LPG から原料 1 トン当たりエチレンとプロピレンの収率が高く、フィールド・コンデンセート(分解可能なタイプであれば)は副産品の率が高い。これら 2 つの代替原料はスエズ以東よりも以西の市場で普及している。LPG のクラッキングはアジアにおいて更に限定的であり、コンデンセート・クラッキングもしかりである。

1) アジア市場:

アジアではアルジェリアの様な西でも使用している直接分解用に使用可能な大規模な商流は無かった。ガスオイル対応のクラッカーも見あたらない。ナフサ分解装置を運転している石化産業は、西の競合企業が行っているようには、コンデンセートを試してみようという、積極姿勢はない模様だ。日本のさるエチレン生産企業が分解用にコンデンセートを輸入したが、自社のプラントは小規模なロットがベース設計になっているため、タンクスペースも最小限しかなく、通常 1 つの原料であるナフサ対応のみである。こうした理由でコンデンセート分解は殆ど停止状態となっている。多のアジア地域では、コンデンセート分解に関心を寄せる石化企業は少ない。韓国のエチレン分解業者(クラッカー)は日本の企業が抱えている程切実な土地不足による制約を受けていない。しかし唯一コンデンセート市場にアクティブなのは、現代(Hyundai)社である。

2) 欧州:

Dow は Terneuzen と Tarragona で使用(全体の原料の内 25-30%使用)しているが、Sonatrach 社の年産 500 万トンのコンデンセート・スプリッター(Skikda)が完成すると、2008 年にはコンデンセートのストリーム(産出量)が減少する見込みで、そうなると Terneuzen ではコンデンセートを減らし LPG 又はナフサを増量することになろう。Sabic Europe もアルジェリア・コンデンセート等をフィードしており、ガスオイル・クラックも可能であり、他の殆どの欧州メーカーよりコンデンセートの広い選択肢を保持している。Sabic 社はコンデンセート・クラッカーを新たに建設しないが、これはソナトラック社が Skikda に建設するかも知れないと言う背景もある。

3) 米州:

米国では 4 社が米湾岸地域でコンデンセート原料を使用しており、そのうち 2 社がレギュラーベースで使用。Dow 社はアルジェリア・コンデンセートを米湾岸地域(テキサスの Freeport の Complex)で使用。アルジェリアがベースでノルウェー産/ロシア産も 2006 年にはレギュラーベースで輸入されている。

(2) 欧州アフリカ地域

・**北アフリカ**: **アルジェリア**の今年前半の輸出量は昨年比減少している。(約 332 万トン→約 286 万トン)しかしながら BP/Statoil の行っている In Amenas プロジェクトが開始されれば今年後半には輸出量が回復する見込み。フィールドのガスは 6 月後半には生産される見込み。ソナトラックは Dow 社に LPG を販売している。5 月に米ガルフ向けと北西欧向けに販売、更にプロパンを 3 カーゴ同社に販売(北西欧又は米ガルフ揚げ)下が、ナフサ・リンクのフォーミュラという。

・**西アフリカ**: ジオガス社が**赤道ギニア**のビオコ島出しの LPG 入札で落札、契約期間は 7-12 月だが半年間の延長のオプションが付いている模様。**ナイジェリア**は問題が多発しており、シェル社

は、武装勢力が5人の従業員を拉致した6月初めにCawthorne Channelのガス・プラントを閉鎖した。グローバルエナジー社のLPG事業はこれらガス供給の途絶の影響を受けている。NLNG社のポニー・プラントもこのプラントからも一部ガス原料の供給を受けている。現在は年間約66万トンのLPGを生産している。NLNG Plusプロジェクトは、LNG trainの2系列増設によって(更なる6系列目は2008年までの計画となっているが)今年10月ごろから数量を拡大する予定であった。しかしながら、現在のガス原料供給の制約によって増産幅は当初より少なくなる見込み。NLNGは恐らく2007年の長期契約の入札を7月に発表する見込み(2006年は約60万トンのLPGで全量仏Total社が契約した)。

(3)北米・中南米地域

《北米》

1.原油:

北米LPG価格に大きな影響を与える原油価格(WTI)は7月中旬にイスラエル軍のレバノン侵攻で一旦、バレル当たり78ドルまで高騰し、7月25日現在73ドル程度で推移している。

原油高騰の背景には、米国に於いては精製油能力が日量1700万バレル強である製油所稼働率が92%(7月21日現在EIA)と継続して高いこと、本格的なドライブシーズンである7月に入り昨年より1.8%の伸び率の日量960万バレルの需要で堅調に推移している自動車用燃料(モーターガソリン)や昨年湾岸地域の石油ガス供給施設の損壊のみならず多大な犠牲者を出した大型ハリケーン再襲来の懸念等が揚げられよう。

最近の価格高騰の太宗を占める米国以外の要因としては、西アフリカ、中東、更には北朝鮮のミサイル実験等も加わり地政学リスクが急速に高まっている事や世界各地の原油生産余力が低下していることが考えられよう。

2.在庫:

北米のLPG需給の指標となる米国のプロパン在庫は、EIAによると7月21日のプロパン在庫合計は5530万バレルで昨年同時期の7月22日の在庫、5900万バレルに比べ6%程度低くなっている。過去5年間の平均在庫数量と比較した場合は、在庫量は健全な範囲であり、7月の最初の3週間で670万バレル増加し、当月の過去5年平均量の90%以上の積み上げを達成している。5年平均在庫の範囲の下限より低いのは米国最大の貯蔵地域である湾岸地域に限られ、同所の在庫は2630万バレルで昨年7月末比約22%、740万バレル少ない。しかしながら、総じて冬場の需要期に備え9月末在庫の最大化を目指し積み上がりは順調のようだ。

3.価格:

EIAの週報によると、montbelvieuのLPG価格は最高値になった原油価格の上昇基調に伴いプロパン価格は6月末比3セント上がり、7月21日には米ガロン当たり117セントになった。因みに昨年同期では30セント以上低い84セントであった。中東情勢・紛争悪化が見込まれ高止まり又は更なる原油価格の高騰に伴いLPG価格の上昇気配は否めない。

4.輸入:

2006年の前半を終え、米国へのLPG海上輸入量は最大の6300万バレルを記録した昨年と比べて、本年度の数量は減少ペースにある。しかしながら、極東や北西ヨーロッパ市場との価格差次第では中東からの裁定玉が流入する機会も多いと考えられ、海上輸入量が昨年を下回る有無を論ずるには時期尚早である。

《中南米》

- ・**ブラジル**：ボリビア発の石油・ガス国有化の動きはボリビアの最大の顧客であるブラジルのガスと NGL市場にも影響を及ぼしている。LPG 市場にも影響が及んでいるが、最近のLPG輸入カーゴ買付要因としては冬季の需要が背景にある。輸入先は中東や北海、又アルジェリアのカーゴも 6 月初めに予定されている。
- ・**ペルー**：アンデス山系に位置するカミセア・フィールドから太平洋岸のプラヤ・ロベリアにある受け入れプラント(ピスコにある LPG プラントに隣接)まで原料供給する NGL パイプラインは 2004 年後半の操業開始以来、数度のガス漏れに見舞われている。地元では原因について、地形、建設、あるいは操業者が原因だという様々な説が流れている。現状 NGL はパイプラインで輸送されており、ピスコ・プラントで LPG が生産中だが、国内市場向けで手一杯であり、最近は輸出市場には廻っていない。

② LPGタンカーの運賃動向：2006年6月

【長期備船費(12か月、冷凍船)(単位:千ドル/月)】

	4月末	5月末	6月末
75,000 - 78,000 m ³ 船(新型)	1,200	1,200	1,200
75,000 - 78,000 m ³ 船(旧型)	950	950	950
15,000 m ³ 船	675	650	725

【スポット運賃、\$/トン】(75,000-54,000 m³船型中心)

【注:()内の数字はノミナル・レート(理論値)】

	4月	5月	6月
アラビア湾 → 極東(中国<安値>~日本<高値>)	39-47	47-57	54-63
アラビア湾 → 地中海	(50-55)	(60-65)	(70-75)
アラビア湾 → 北西ヨーロッパ	(55)	(63)	(69)
アラビア湾 → 米国(ガルフ)	83	(91)	(97)
アラビア湾 → インド(西岸)(20-35,000m ³)	40-70	40-70	45-70
ヤンブー(サウジ) → 極東(日本)	49-53	55-61	64-67
ヤンブー(サウジ) → 地中海	(45-50)	(54-60)	(62-65)
ヤンブー(サウジ) → 北西ヨーロッパ	(50-55)	(58-66)	(64-74)
ヤンブー(サウジ) → ブラジル	(59)	(67)	(74)
ヤンブー(サウジ) → 米国(ガルフ)	70-79	80-87	80-93
アルジェリア → 北西ヨーロッパ	25-35	25-35	25-36
アルジェリア → 米国(ガルフ)	49-55	50-57	50-64
アルジェリア → メキシコ	50-55	50-55	50-60
アルジェリア → 極東(中国~日本)	(69-72)	(77-80)	(83-85)
北海 → 極東(中国~日本)	(89-94)	(97-102)	(103-108)
北海 → 米国(ガルフ)	50-55	50-55	50-59
北海 → 北西ヨーロッパ	20-30	20-30	18-30
ナイジェリア → 極東(中国~日本)	-	-	-
ナイジェリア → 米国(ガルフ)	50-55	50-55	50-60
米国(ガルフ) → 極東(パナマ経由)	(81)	(89)	(95)
オーストラリア(南東部) → 極東(中国~日本)	41-44	49-52	55-58
ベネズエラ → 米国(ガルフ・東部)	40	40-45	40-45

③ LPG価格動向

スエズ以東	2006年6月CP(\$/トン)	2006年7月CP(\$/トン)
プロパン:サウジアラムコCP	470	502
ブタン :サウジアラムコCP	470	502

欧州:プロパンスワップ先物市場価格(\$/トン、CFR 北西ヨーロッパ)

4月下旬時点: 6月:525-530, 7月:528-536

5月下旬時点: 7月:521-526, 8月:523-537

6月下旬時点: 8月:557-563, 9月:567-575

米州:モントベルビュー・スポット価格(セント/ガロン、カッコ内\$/mt 概数)

	4月後半	5月後半	6月後半
プロパン:	103(537)	105(547)	113(589)
ブタン:	122(551)	121(547)	129(583)
エタン:	69(506)	68(499)	74(543)

(換算係数 ¢/ガロン→\$/mt: プロパン 5.213, ブタン 4.520, エタン 7.338)

【契約価格 FOB、\$/トン】

	プロパン			ブタン		
	4月	5月	6月	4月	5月	6月
サウジアラビア(CP)	435	470	470	425	470	470
北海(BPAP)	478	501	498	465	462.5	481
アルジェリア	455	488	491	455	470	482

【月平均スポット価格 CFR、\$/トン】

	プロパン			ブタン		
	4月	5月	6月	4月	5月	6月
日本	493	503	542	490	502	541
ヨーロッパ(北西部)	514	518	542	495	500	528
米国(ガルフ)	523	535	565	511	526	551
中国(南部)	488	497	534	485	496	534

④ 海外・日本のLPG関連イベント(会議・展示会)

イベント名	場所	日付	主催者
Purvin & Gertz Inc. アジア LPG 国際セミナー	Singapore	2006 年 7 月 10-13 日	Purvin & Gertz Inc.
WLPGA(世界 LP ガス会議) >C(世界技術会議)(共催)	Chicago(U.S.A.)	2006 年 10 月 17-20 日	WLPGA & PERC (世界 LP ガス協会) & 米国 プロパン普及協会
Purvin & Gertz Inc. Latin America LPG Seminar	Panama City, ,Panama	2006 年 11 月 6-9 日	Purvin & Gertz Inc.
LPG 国際セミナー2007	東京	2007 年 2 月 22-23 日 (予定)	エルピーガス振興センター
中国LPGセミナー	中国	2007 年 2 月末-3 月初め頃	広東油気商会
Purvin & Gertz Inc. U.S.LPG Seminar	Houston	2007 年 3 月中旬頃	Purvin & Gertz Inc.

財団法人 エルピーガス振興センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目 19 番 5 号 虎ノ門一丁目森ビル



(注：尚 2006 年 4 月号以降、郵送は都合により取りやめ、弊振興センターのHPへの掲載のみとなりましたこと、ご了承願います。)